

# フィリッポ・トンマーズ・マリネッティ 「ヴァラエティ・ショー」<sup>1)</sup>

Filippo Tommaso Marinetti, « Il Teatro di Varietà » (1913)

『デイリー・メール』紙1913年11月21日号発表

我々が現代演劇（韻文劇、散文劇、音楽劇）に深い嫌悪を抱いているのは、それが歴史の再構成（ごた混ぜないしは剽窃）と我々の日常生活の写真的複製の間を愚かしくも揺れ動いているからである。コセコセして、のろのろして、分析的で希薄な演劇は、せいぜい石油ランプの時代にふさわしい。

未来派はヴァラエティ・ショーの舞台を称賛する。なぜなら――、

1——ヴァラエティ・ショーは幸運にも、電気から我々とともに生まれたものであり、いかなる伝統も、いかなる師匠も、いかなるドグマも有することなく、迅速なアクションリティを糧にするからである。

2——ヴァラエティ・ショーは全く実践的なものである、なぜならそれは喜劇性の効果、エロティックな興奮ないしは想像力の驚き〔stupore〕によって、公衆の気晴らしとなり楽しませようとするからである。

3——ヴァラエティ・ショーの作家、俳優、道具方は、それが存在し勝利する唯一の理由を有している。すなわち、新しい驚きの要素を不断に創造するものとしてのそれ。留まることや繰り返すことに対する絶対的な不可能性はここから生じ、機敏さ、素早さ、力、複雑さや優美についての様々なレコード〔record〕を超えるための、頭脳と筋肉の激越な競争もここから生じる。

4——ヴァラエティ・ショーは、唯一、今日において、映画を活用することで、その莫大な数のヴィジョンと実現し難いスペクタクルを豊かにしている（戦争、暴動、

競走、自動車や飛行機のレース、旅行、豪華客船、また都市、農村、海や空の奥底）。

5——ヴァラエティ・ショーは、無数の創造的な努力へ報いる陳列棚でありつつ、近代のメカニズムから生産される、私が未来派的感嘆〔meraviglioso futurista〕と呼ぶそれを当然にも生み出す。こうした感嘆の要素のいくつかを挙げてみよう。1) 強烈なカリカチュア、2) 数々の滑稽、3) 繊細で絶妙なアイロニー、4) 紛糾し決定的なシンボル、5) あふれる哄笑の滝、6) 人類、動物の世界、植物の世界の間における深いアナロジー、7) 暴露的シニシズムの輝き、8) 心地よい風を知性に通すのに役立つ、機知に富んだ皮肉と洒落と謎掛けのより合わせ、9) 神経をくつろがせるためのあらゆる範囲の笑いと微笑み、10) 知性を無慈悲にも狂気の淵へと押しやる、あらゆる範囲にわたる愚行、低能さ、戯言、非常識、11) 我々の感覚のうち最も探索されざる部分のうちにある、謎めき説明し延長部分を伴った、光、音色、雑音、言葉のあらゆる新しい意味、12) 迅速に始末がついていく事件と、わずかな間に右から左へと押し出される人物たちの集積（「それではバルカン諸国に目を向けてみましょう」、すなわちニコラ王、エンヴェル・ベイ、ダネフ、ヴェニゼロス<sup>2)</sup>、セルビア人とブルガリア人の中で飛び交う腹への拳と顔への平手打ち、クプレを一節、すべては消える）、13) 教育的で風刺的なパントマイム、14) そのぐずぐずしてくたびれた痙攣性の緩慢さによる腹立たしいしぐさのために感覚へ強く刻まれた、苦痛と懐古のカリカチュア。喜劇的なしぐさ、奇矯な変装、言い間違い、しかめ面、おふざけによって、あざ笑われる深刻な言葉。

6——今日のヴァラエティ・ショーはるつぽであり、そ

1) [訳注] 翻訳に際しては、以下を底本としている。Luciano De Maria (a cura di), *Marinetti: Teoria e Invenzione Futurista*, (2. ed., Milano: Mondadori, 1983), pp. 80-91. 初出は以下の通り。Lacerba, n.19, 1 ottobre 1913. 『ラチェルバ』誌に掲載された以外にも、「未来派運動本部 (Direzione del Movimento Futurista)」名義による、パンフレット (1913年9月23日付) 形式で発表されたものなど、若干の語句の異同を含む複数の版が存在する。なお、日本では細川周平氏による先行訳があり、本稿の参考にさせていただいた。「ヴァラエティ・ショー」『ユリイカ』1985年12月号、168-175頁。

2) [訳注] いずれも、バルカン半島をめぐって争っていた同時代の政治家。Nikola I (モンテネグロ王、1841-1921)、Enver Bey (オスマン帝国の軍人、1881-1922)、Stoyan Danev (ブルガリアの首相、1858-1949)、Eleftherios Venizelos (ギリシャの首相、1864-1936)。

の中では新しい感覚を準備する諸要素が沸騰している。そこに見出されるのは、「美」、「偉大」、「荘厳」、「宗教」、「残酷」、「魅惑」、「並外れ」といったあらゆる使い古されたステレオタイプの皮肉な解体であり、これらの後に続く新しいプロトタイプの抽象的な技巧である。

つまりヴァラエティ・ショーとは、物質的かつ道徳的な苦痛を笑い飛ばしながら楽しみに興じるため、その神経において人間が今まで洗練させてきたものすべての総合〔sintesi〕である。さらにヴァラエティ・ショーは、あらゆる哄笑、あらゆる微笑、あらゆる嘲笑、あらゆる苦笑、あらゆる未来の人間の洪面の沸き立つ融合である。これから100年の人間を揺り動かすであろう快活さが、その詩、その絵画、その哲学、その建築の跳躍に享受される。

7——ヴァラエティ・ショーは、その形態と色彩のダイナミズムによって、あらゆるスペクタクルの中で最も衛生的なものを提供する（軽業師、バレリーナ、体操選手、多色の曲馬師、つま先立ちで独楽のように回る踊り手の渦巻くサイクロン）。迅速で人を惹きつけるダンスのリズムとともに、ヴァラエティ・ショーは最も緩慢な精神をも強制的に引きずり出すとともに、それに走り跳躍するよう課す。

8——ヴァラエティ・ショーは、公衆の協力を活用しようとする唯一のものである。ここで公衆は馬鹿げた覗き魔〔voyeur〕のように静的にとどまっているのではなく、騒々しく活動へ参加するのであり、自らも歌い、オーケストラで演奏し、思いもよらぬ冗談や奇矯な会話を俳優と交わすのである。彼らはふざけた議論を楽師たちにも挑む。

ヴァラエティ・ショーは、公衆の雰囲気と舞台の雰囲気を混ぜ合わせるために、葉巻タバコと紙巻タバコの煙を活用する。なぜなら公衆は、こうして俳優のファンタジーと協力するからであり、事件は舞台の上と同時に、ボックス席と平土間席でも展開される。スペクタクルが終了した後もそれは続くのであり、着飾って片メガネをつけたファンの集団が、花形女優〔la stella〕を奪い合うために出口で人垣を作る。最終的な二重の勝利、すなわちシックな晚餐とベッド。

9——ヴァラエティ・ショーは男性のための教育的誠実さの学校である、というのはそれが貪欲な本能を称賛す

るからであり、女性からあらゆるヴェールを、あらゆる言葉を、あらゆる嘆息を、彼女を歪曲し変装させるあらゆるロマンティックなすすり泣きを剥ぎとるからである。逆にそれが表に引き出すのは、あらゆる賛嘆すべき動物的な女性の性質であり、その掌握の、誘惑の、不誠実と抵抗の力である。

10——ヴァラエティ・ショーは、力および危険の健康な空間を舞台にして創造する、勝利すべき困難と超克すべき様々なレコードのためのヒロイズムの学校である（例：死の跳躍、自転車や自動車の、または馬上の宙返り）。

11——ヴァラエティ・ショーは、その道化〔crowns〕、手品師、読心術者〔divinatori del pensiero〕、並外れた計算術者、性格俳優〔macchietisti〕、ものまね師とパロディ作家、その音楽的な軽業師とアメリカ風寄席芸人〔eccentrici americani〕による、鋭敏さの、複雑さの、頭脳的な総合の学校であり、彼らの幻想上の妊娠は、本当にはあり得ないオブジェとメカニズムを生み出す。

12——ヴァラエティ・ショーは、天分ある青年や若者に助言を与えることが可能であろう唯一の学校である。なぜならそれは、明快かつ迅速なやり方で、非常に難解な問題や非常に複雑な政治的事件を説明するからである。事例——昨年、フォリー・ベルジュールでは、二人のダンサーが、モロッコとコンゴの問題についてカンボンとキーダーレン・ヴェヒター<sup>3)</sup>の間で揺れ動いた議論を表現していたが、この象徴的で意義深い一つのダンスは、少なくとも3年にわたる外交政策についての学習に等しいものであった。公衆に向かった二人のダンサーは、腕を組みかわし、片方がもう片方ときつく寄り添い、領土についてのお互いの譲歩を表しながら、前へと後ろへと、右へと左へと跳躍し、まったく離れずに、それぞれの目を目標からそらすことはなく、お互いにもつれ合っているものであった。過剰な礼儀、巧妙な動揺、獐猛さ、不信、強情さ、小心さといった、外交についての比類なき印象を彼らは提供したのである。

さらにヴァラエティ・ショーは、生活を支配する諸法則を明快に説明する。

a) 複雑さと異なるリズムの必要性。

b) 虚偽と矛盾の運命（例：二つの顔を持つイギリスの女性ダンサー、羊飼娘と恐るべき兵士）。

3) [訳注] Jules Cambon (当時のフランスの駐独大使、1845-1935)、Alfred von Kiderlen-Wächter (当時のドイツ外相、1852-1912)。なお後者は原文において Kinderlen-Watcher と綴られているが誤り。1911年に発生した、アフリカの領有をめぐる紛争の立役者。

- c) 人間の諸力を修正する、ある整然とした意志の全能。
- d) 速度の総合+変容（事例：フレーゴリ）。

13——ヴァラエティ・ショーは、単調さと自動性を兼ね備えた日々の業務を伴い、ノスタルジックな情念の衰弱を飽きるほど繰り返す、理念的な恋愛とそのロマンティックな強迫を一貫して軽蔑する。それは奇矯に感情を機械化し、肉体の所有権を衛生的に軽蔑して踏みにじり、性交の自然な役割を引きずり降ろすものであり、何の謎も、何の憂鬱な苦悶も、何の反衛生的な理想主義も有さない。

むしろヴァラエティ・ショーは、容易、軽快かつ皮肉な愛の感覚と趣味をもたらす。カジノのテラスの上にある風通しの良いカフェ・コンセール [café-concerto] のスペクタクルは、痙攣し、無限の絶望に責められた月光と、偽の宝飾品、化粧された肉体、あらゆる色のタイトスカート、ヴェルヴェット、スパンコールや唇の偽の血色を暴力的に照らし出す電光との間における、真に愉快な戦いを提供する。もちろん、エネルギーにあふれる電光が勝利し、ひ弱で退嬰的な月光が敗北するのである。

14——ヴァラエティ・ショーはもちろん反アカデミックであり、原始的で純真、すなわち、その不測さへの追求とその手段の簡素さのために、より意義深いものである（例：女性歌手が [chanteuseus] がすべてのクプレの終わりごとに見せる、檻の中の野獣のような、システムティックな舞台の一めぐり）。

15——ヴァラエティ・ショーは、「厳粛」、「神聖」、「真剣」、「大文字の芸術 [Arte coll'A Maiusco]」による「芸術の崇高」を破壊する。それは不滅の傑作群を未来派的に破壊することに協力するものであり、そうした作品を剽窃し、パロディ化し、装飾も悔恨もなく、ほとんどアトラクションの番組のように、気楽な形で展示する。ゆえに我々は、『パルジファル』を40分で演奏することに無条件で賛同し、ロンドンの大ミュージック・ホールでそれを実現するための準備を行っている。

16——ヴァラエティ・ショーは、あらゆる遠近法、比例、時間と空間についての我々の観念を破壊する（例：舞台の真中で孤立した高さ30センチの小さい門や柵、ある種のアメリカ風寄席芸人は、別のことができないかのように真剣に、そこから進みながらそれを開き、また通り過ぎながらそれを閉める）。

17——ヴァラエティ・ショーは、今日までに到達されたあらゆるレコードをもたらす。すなわち、最高の速度と日本人の最高の軽業および曲芸、黒人の筋肉の最高の熱狂、動物の知性の最高の発展（訓育された馬、象、アザラシ、犬、鳥）、ナポリ湾およびロシアのステップの最高の音楽的靈感、最高のパリの精神、異なった人種間で比較された最高の力（レスリングとボクシング）、最高の解剖学的奇怪さ、女性の最高の美。

18——当世の舞台が、内的な生活、学者ぶった冥想、図書館、美術館、良心のつまらぬ戦い、愚かしい感情の分析すなわち（不潔な事柄であり言葉である）心理学を称賛するのに対し、ヴァラエティ・ショーは行動、ヒロイズム、屋外の生活、敏捷さ、本能と直感の威信を称賛する。心理学に対し、私が肉体狂気 [fiscifolia] と呼ぶそれは対抗しているのである。

19——最後にヴァラエティ・ショーは、唯一で巨大な首都を持たないあらゆる国（イタリアのような）に対し、極度に洗練された贅と快楽に憑りつかれた唯一の溶鉱炉としての、パリの輝かしい技粋を与えるものである。

### 未来派はヴァラエティ・ショーを驚き、レコード、肉体狂気の劇場に変容させることを望んでいる

1——ヴァラエティ・ショーのスペクタクルの中にあるあらゆる論理性を完全に破壊するとともに、とりわけその華美さを誇張し、対比を増大させ、作り物らしさと不条理さを舞台に君臨させる必要がある（事例：女性歌手に、襟ぐり、腕、とりわけ髪を、今日まで誘惑の手段として見逃されてきたあらゆる色で染めることを義務づける。緑の髪、紫の腕、青の襟ぐり、オレンジのシニオンなど。小唄を歌い続ける隣で革命の演説を行い邪魔する。悪口と卑語の叙事詩 [romanza] をばら撒くなど）。

2——ヴァラエティ・ショーに根付いている一連の伝統を退ける。そのために、ギリシャ悲劇のように阿呆らしく退屈なパリ流のレビュー [Revues]、古代のコロスの役割を果たしているその男女の司会者 [Compère et Commère]、および論理性と連関性を持ち合わせ、この上なく煩わしい洒落によって強調された、彼らの政治的人物と事件の連なりと戦い、これを廃絶する。実際ヴァラエティ・ショーは、残念ながら今日においてもなおそうであるように、何らかのユーモア雑誌とほとんど同じであってはならない。

3——驚愕とともに、舞台正面席、ボックス席、天井席の観客に行動を起こさせる必要性を導入する。ここでは思いつきの提案を挙げておこう。いくつかの特別席に強い接着剤を塗っておく、なぜならその観客は、男であれ女であれ、全体の哄笑を引き起こすからである（台無しにされたフロックや盛装〔il frack e la toilette〕は、もちろん出口で補償されるだろう）——同じ座席の切符を10人に売り出す。つまり席がふさがり、言い争いと口喧嘩が起こる。——立ち回り、猥褻な振る舞いを伴った女性へのちょっかい、もしくは別の奇行をしでかすような、半ば頭のおかしい、短気でエキセントリックなことで有名な紳士ないしは淑女へ、無料で席をふるまう。かゆみやくしゃみを引き起こすような粉を特別席に撒き散らす、など。

4——舞台に関するあらゆる古典芸術を体系的に売春させる。例として、ギリシャ、フランス、イタリアのあらゆる悲劇を要約して、喜劇的に混ぜ合わせて一晩のうちに上演する——ベートーヴェン、ワーグナー、バッハ、ベッリーニ、ショパンの作品に、ナポリ小唄を差し挟むことでそれらを活気づける——ザッコーニ、ドゥーゼ女史、マイヨール、サラ・ベルナル、フレゴリ<sup>4)</sup>を同じ舞台に並んで立たせる——ベートーヴェンの交響曲を全く逆さに、最後の和音から初めて演奏する——シェイクスピアの全作品を一幕にまとめる——もっとも尊敬されている俳優たち全員に別のことをやらせる——袋に首まで入った多くの俳優たちで『エルナニ』を上演する。最も悲劇的な場面に愉快な転倒を引き起こすために、舞台板に石鹸を塗りつける。

5——称賛すべきグロテスクぶりの効果、並はずれたダイナミズム、粗野な妙案、巨大な乱暴さ、驚愕をふりまくチョッキと貨物船の船倉のような長ズボンといったものから、何千という別の事柄をも伴いつつ、世界の表情を若返らせずにはいない偉大な未来派的哄笑が飛び出すであろう、アメリカ風寄席芸人のジャンルをあらゆる手段で促進する。

なぜなら、忘れてほしくないのは、我らの宣言「月光を殺そう〔Uccidiamo il chiaro di luna〕」の中で公言したように、我々未来派は**乱痴気騒ぎの中の若き砲兵**だからである<sup>5)</sup> 炎+炎+光 対 月光 および 古い署名 戦争 毎晩

大都市 振り回す 輝く広告

黒人の巨大な顔（高さ30メートル+建物の高さ150メートル=180メートル） 開ける 閉じる 開ける 閉じる 高さ3メートルの黄金の瞳を **吸え 吸え マノーリ 吸え マノーリ・タバコ** シャツの女（50メートル+建物の高さ120メートル=170メートル）が 紫の 紅の 薄紫の 青の 胸を 締め付ける くつろげる シャンパンのコップ（30メートル）の中の電球の泡 口の闇の中で はじける 気化する **輝く** 広告 ヴェールをかぶる 死ぬ 強靱な黒い腕の下で 再生する 連続する 延長する 夜の中で 人間的な昼の努力 勇気+狂気 絶対に死なず 留まることも眠ることもない **輝く** 広告= 大地の中心 鉱物と植物の形成と解体 生氣を帯びる 真っ赤になる 未来派の家屋の鉄の表情における血液の循環（歓喜 憤激 そら そら もう一度急いで もう一度より強く） ペシミスティックで否定的で感傷的でノスタルジックな闇が都市を包囲するやいなや 日中は尊大な混雑が流れている道々の **輝かしい** 目覚め 二頭の馬（高さ30メートル）が一本の足で黄金の球を転がす **ジョコンダ アックァ プルガティーヴァ** すれ違う **トルルルル トルルルルル** 高揚した〔Elevated〕 **トルルルル トルルルルル** 頭の上に **トランペットペットペットトト** ウィイウィイイン 救急車のサイレン+電気ポンプ 光り輝く通路における道々の変容 導く 推し進める 論理性 必要性 不安+哄笑+ミュージック・ホールの大音響へ向かう群衆 **フォーリー・ベルジュール アンピル クレム・エクリプス** 赤い 赤い 赤い 濃青の 濃青の 紫の 水銀チューブ 巨大な 金の手紙—ウナギ〔lettere-aguile〕 炎 緋色 **ダイヤモンド** めそめそした夜への未来派の挑戦 星々の敗北 熱量 熱狂 信仰 確信 望み 家の中の **輝く** ポスターの浸透の真正面にある 活気のない古書蒐集家のスリッパの中のあの痛風への **黄色の平手打ち** 3枚の鏡がそれを見る 3つの赤金しょおのおくの深淵に潜むポスター 30億キロメートルの深さの 開く 閉じる 開く 閉じる 恐怖 抜け出す 抜け出す 急げ 帽子 杖 階段 タクシーメーター 一撃 **ズズ**

4) [訳注] 異なったジャンルで活動していた同時代の舞台スターたち。Leopoldo Fregoli（「フレゴリの錯覚」にその名を留める、1867-1936）、Eleonora Duse（ダンスンツィオ女優として有名、1858-1924）、Félix Mayol（ミュージック・ホールの歌手、1872-1941）、Sarah Bernhardt（フランスの悲劇女優、1844-1923）、Ermete Zacconi（リアリズム演劇の導入者として有名、1857-1948）。

5) [訳注] この部分より記述は、句読点や文法構造を無視した「自由語〔Parole in Libertà〕」の形態に突如変化する。

オエウ さあ着いた 立見席〔promenoir〕の  
閃光 軽音楽の熱帯林の間にいる女豹=売春婦  
〔pantere-cocottes〕の荘厳。 率直な香りと陽

気の熱 ミュージック・ホール=世界の未来派的頭脳の  
疲れを知らぬ送風扇。

(訳：太田岳人)